

新見高校では、令和6年4月から学校・地域・関係機関が一体となって「地域とともにある学校づくり」に取り組むための組織「学校運営協議会」をスタートしました。

学校運営協議会委員は、保護者や地域関係者、大学関係者等学校運営に支援と協力をいただける方を依頼し、県教育委員会から任命を受けています。学校とともに熟議しながら、学校の運営と支援について検討・協働していきます。

令和6年度 岡山県立新見高等学校学校運営協議会 委員（五十音順 敬称略）

岩淵 泰	岡山大学 研究・イノベーション共創機構 準教授
後藤 秀則	前新見高等学校学校連携コーディネーター
斎藤 健司	新見公立大学健康保育学科 教授
昌谷 康司	新見市総合政策課 新見高等学校学校連携コーディネーター
田邊 眞	新見市小学校長会 会長 新見市立新見南小学校 校長
忠田 眞	新見教育委員会教育総務課 教育総務課長
西岡 宏	新見ふれあいセンター センター長
西川 康裕	新見高等学校 PTA 会長
藤野 哲久	新見市中学校長会 会長 新見市立哲西中学校 校長
岩本 恭治	新見高等学校 校長

# 令和6年度 学校運営協議会 第1回会議 議事録

岡山県立新見高等学校

日 時：令和6年4月30日（火） 13:30～16:00

場 所：岡山県立新見高等学校 会議室

出席者：岩淵（岡山大学）、後藤（前学校連携コーディネーター）、斎藤（新見公立大学）、昌谷（新見市総合政策課兼学校連携コーディネーター）、田中康信（新見商工会議所）、田邊（新見南小学校）、忠田（新見市教育委員会）、西岡（新見ふれあいセンター）、西川（新見高校PTA）、藤野（哲西中学校）、岩本（新見高等学校）、副校長、教頭、事務部長、主幹教諭、指導教諭、教務課長、生徒課長、進路指導科長、厚生課長、普通科長、生物生産科長、工業技術科長（敬称略）

開会

## 1 校長あいさつ

「委員を依頼する根拠」を確認

再編整備基準の適応方針について説明（R10年度まで保留されることを含む）

生徒数、定員の説明、充足率と市内中学生の出願率の変遷について説明

会議資料に基づく説明

- ・スクールミッション・スクールポリシーについて
- ・育てたい生徒像、学びの内容・方法、求める生徒像
- ・令和6年度ランドデザイン、学校経営計画

委任状交付

## 2 出席者紹介

## 3 学校運営協議会について

消滅可能性都市が話題となる中で、学校教育においては変化の激しい社会に対応できる知識を教え、必要とされる資質・能力を明らかにして、県の目指す人材の育成を念頭に置き教育活動に取り組んでいく。一方では、学校教育、社会教育、家庭教育のバランスが崩れている現状も感じている。これを受け、本校では未来を担う人材としての生徒の豊かな成長について、学校と保護者、地域、関係機関等が協働し学校運営に取り組むことが可能となる学校運営協議会制度を導入し、「地域とともにある学校」づくりを推進していくこととした。

学校運営協議会は、広く地域社会の意見を集めるために、「学校の外にある」組織という立場から、協議する組織体として運営に関わることが規定されている。

地域にある県立高等学校がなくなると、地域の衰退に影響すると言われている。学校運営協議会と高等学校との連携、共通理念をもった熟議・協働が求められている。肯定的で未来志向の話し合いを重ね、学校・地域・関係機関が一体となって「地域とともにある学校づくり」に取り組みたい。

## 4 会長選出

委員の互選により、会長として西岡委員を選出。

## 5 会長あいさつ

小学校での学校運営協議会の運営経験はあるが、高等学校では初めて。委員の皆様、学校との連携のもと尽力したい。

## 6 協議 本校の現状と課題について

協議（議事）の内容については公開されることを確認。

### (1) 令和5年度教育活動について

事務局から各学科長により説明

普通科：GT（主権者教育）の説明、中学生まちづくり会議との関連等

生物生産科：インターンシップ、特産品開発、森の担い手事業への取組等

工業技術科：市内中学校出前授業（プログラミング講座等）、ゼロハンカー作成・大会参加等

### (2) 令和5年度学校評価書について

主幹教諭から、具体的な学校経営目標・計画に対する評議員からの意見等を説明

1 保護者・生徒の理解を深める活動を

2 1人1台端末の導入は評価、今後も継続して活用していく

3 生徒が主体となる活動を増やす

4 実態をどう伝えるかが課題

### (3) 令和5年度交流事業・令和6年度学校経営計画・令和6年度の主な行事・令和6年度の主な事業及び予算について、事務局から各担当により説明。

## 7・8 質疑応答及び意見交換

**委員A**：負担が大きくなっている

生徒数の減少（子どもの減少）→教育内容の削減につながり、悪いイメージとなる

誰も解決策を持ち合わせていない。できる限りのことはしていきたい。

**委員B**：多様化した考え方が背景にある。目線が外に向いている。

解決は難しい問題。1人1台端末についてはどのような位置づけか。

→全県的に高校は「本人持ち」である。ソフトウェアで管理している。

**委員C**：中高連絡会の内容は？

→中学校進路担当、校長と春と秋の2回情報交換している。

学校教育課長とも話したが、不正確な情報、適切でない情報が回っている。

「中高連絡会」とは違う枠組みで、担当者レベルでもパイプを作っていくことが考えられる

OSを見て他の高校（高梁）に行きたいという情報があり、印象が悪かったのではないか。

（OSでテストをしているところを見学）楽しい学校という印象を与える取組をすべき。

**委員D**：危機的な状況であり、自治体や地域住民が危機感を持つべき。

1市1校なら弾力化された再編基準ではあるが、基準は生きているので安心感を持たない

進路選択の多様性、他校の校長が、「トイレがきれいな学校に流れた」というコメントを言って

いたことがある。中学生の進路意識はその程度で左右されるほど希薄になっていると言える。

魅力発信が足りない、ということについては、宿題が多い、勉強ばかりということはずっと聞く。保護者の意識が変わっていない。ではどうやってそこを埋めるのか。

「正確に伝わっていない」現状から意識を変えることは高いハードルだが私たち委員が意識を持ってやっていくこと。

3月10日の山陽新聞では1面で主権者教育が評価された。

2か月前の社説でも中学生を交えていることを高く評価されている。

論説委員や高校魅力化推進室も高い評価をしてくれている。

しかし、この高い評価さえ「勉強ばかり」という評判の一部になっているのではないか。

小中で課題解決学習は進んでいる。県からも新見市全体に高評価。

岩淵先生のミニシンポジウムに34名参加した。全国的に珍しい活動である。

温度差があるならば、受検者だけでも意見を出し合える場を作ってみてはどうか。

**委員 E**：授業等、学校の見学をできればいいと思う。

HP、ブログの更新等期待している。昨年度、第2回OSの日程がHPでわからなかった。家庭から学校に提出する用紙の押印を省略するところから、情報化が図られるとよい。自転車ヘルメット着用率の向上を目指せるか。

**委員 F**：安心安全、教育活動、広報活動の充実のうち、広報活動をしっかりしてほしい。

生の実態を伝えていくだけでなく、今いる高校生が本当に「来てよかったと思える」学校にしていくことが大切。様々な場面で発信を。

**委員 G**：新見市では、本年度から新見高校に対して、留学支援、部活動専門人材派遣といった独自の支援を開始した。

高校生が自信をもって「来たらいよいよ」と言えるように。

「宿題が多い」と言われないように。

**委員 H**：教授会等、大学としても新見高校の行く末を心配している。

危機感を持っているので、なにかできることがあれば。

**委員 D**：島根中央高校・矢上高校に視察に行った。

地元2割、県外8割自治体の応援があれば残していくという島根県の方針。

隠岐島前は有名だが、別である。

島根中央高校でも、新見高校のHPを見て国公立30名以上は「すごいですね」という感想。

**委員 I**：主権者教育の原点ともいえる活動ができていないのではないか。自信を持っていいし、自慢していい。ふるさと教育のトレーニングの上にある姿だと思う。

問題として、スクールミッションが達成できていても、子どもたちの志向とは合わない部分もあるのではないか。パンフレット、新見の外のことも学ぶという展開が必要となるのでは。

SDGs、グローバルを大切にするなら新見でよいという発信。

人口減少社会は高校も地域も魅力が必要。課題解決のアプローチを忌憚なく情報交換できたら。

**委員 J**：学校運営協議会でも授業参観を実施しては。

**委員 J**：広報計画については、HP・ブログの更新に期待している。特に部活動については、現在掲載されている部以外の部も、積極的に掲載を。

## 9 その他

(1) 第2回学校運営協議会について

11月実施を予定。後日、日程調整について連絡。

(2) その他

・教科書選定委員会の開催について

協議会委員に選定に関わっていただく必要性あり。ご協力を賜りたい。

# 令和6年度 学校運営協議会 第2回会議 議事録

岡山県立新見高等学校

日時：令和6年11月21日（木） 13:30～16:00

場所：岡山県立新見高等学校 会議室

出席者：後藤（前学校連携コーディネーター）、斎藤（新見公立大学）、忠田（新見市教育委員会）、西岡（新見ふれあいセンター）、西川（新見高校PTA）、岩本（新見高等学校）、副校長、教頭、事務部長、主幹教諭、指導教諭、教務課長、生徒課長、進路指導課長、厚生課長、普通科長、生物生産科長、工業技術科長（敬称略）

開会

## 1 校長あいさつ

協議前に、授業参観（6限 本校地）の実施を確認

2学期も中盤、文化祭や体育祭といった学校行事も多く実施されている。委員の方のご隣席に感謝の意を表す。3年次生については、就職試験・推薦入試に取り組む者の結果も出て来ている。就職については、普通科・専門科ともに順調、推薦入試についても、合格者を出している。1月に実施される共通テストに向け、ラストスパートに入ったところである。

本日の協議会では、本校教育実践の中間期評価を中心に、委員の皆様から多様なご意見を賜れることに期待している。よろしくお願ひしたい。

## 2 授業参観・専門科実習授業の様子紹介

本校地6限の授業を参観（普通科・専門科）

専門科実習授業については、主幹教諭から動画を用いての紹介

普通科長の説明を交えての「新高ジャンプ」（地域ケーブルTVと共同制作）の放映

## 3 説明

令和6年度学校経営計画（中間評価）・教務課の取組（教育課程協議・授業アンケート授業公開・授業参観）・進路指導状況・総合的な探究の時間・学校祭（文化の部）・部活動実績・教育相談事業（シャボテンログによる心の健康観察・通級による指導パワーアップ事業：令和7年度から本格実施）・広報活動・各科及び各年次の取組・高等学校DX加速化推進事業（令和6年度採択校）について、事務局から各担当により資料をもとに説明。

## 4・5 質疑応答及び意見交換

西岡会長による進行

委員A：新見高校に関し、強い関心を持っている。

保護者（中学生）の不安に伝えられているか

（新見高校は学力が高い・「伸ばす」新見高校へ入れるだろうか？）

ベネッセ実施「スタディサポート」の現状はどうか？

→ 変わらず学力伸長を実現している（成績上位層の増加）

学習習慣未定着な生徒に対する教員の指導・支援が奏功している：普通科長回答

学力伸長は、高校にとって大きな魅力。確かな学力は、予測不能な時代に不可欠。

他校には教育目標に「学力伸長率NO.1を目指す」と明記している学校もある。

志願率の低下に対し、「新見高校はどうなるのだろう」との声を多く聞く。志願率の低下に

は、受検する中学3年生の学力低下も影響しているのではないか（普通科進学への不安）？新見市の中学生は、学力・体力ともに県下でも高い成績を保持してきたが、ここ2～3年は低下の傾向が見られる。学力低下には、複数の問題があると思われる。

「普通科進学 = 勉強必至」。中学段階できちんと学ばせて進学させなければ、高校入学後辛い学校生活になる。生涯にわたって学ぶ姿勢を育むことは大切なこと。市民としてどのような協力ができるか？

市議会でも学力が議論されている現状がある。保護者の危機感はどうか？

**委員 B**：広報戦略は効果を狙っていく必要がある。新見高校として、主として市内中学校の抱く新見高校へのイメージ（良い点・改善点）をどのように把握しているか？

→ 良い点：県下にも類を見ない学びの形（学力伸長）がある。

学校生活を生徒主体で頑張っている。生徒が自分たちで創り出している。校則についても、生徒が考え検討している段階である。：普通科長回答

その良い点を PR していく必要がある。高校入学時から大学入試にかけて学力を伸ばした先輩の実例を挙げ、「なぜ勉強を頑張らなくてはならないのか」への理解を求めていく努力も必要である。

一方で、学力を伸ばし進路実現するためには、一定量の課題に取り組むことは必要なこと。

「課題が多い」という意識を持つ中学生や保護者に対し、「なぜ課題に取り組まなければならないか」について理解と納得を求めていく努力も必要である。

小学校・中学校で課題量が減っている現状があることも背景？自由と規律の理解について、子どもたちにいつ育んでいくかも重要。学校間連携の必要性を感じる。

**委員 C**：オープンスクールに関するアンケート集計（市教育委員会）も出ている。ぜひ参照を。

広報に関しては、市内中学生・保護者への広報の効率化、経費節減を図ることも可能では？

「いこう通信」を「こどもん」（保護者）、「Google Classroom」（中学生）に配信しては？

**委員 D**：不登校傾向（欠席30日以上を基準）の生徒の数は？

→ 10名程度と把握している。：厚生課長回答

同時双方向型遠隔授業が導入されたことについて、「知らなかった」がないよう知らせていくことも大切。

**委員 E**：有意義な議論ができた。学校運営協議会委員は、学校に対し意見を述べることができると同時に学校の応援者でもある。今後もどのように関わっていくことができるか、委員それぞれの立場から考えていくことが大切であると考え。

## 6 その他

(1) 第3回学校運営協議会について

令和7年2月下旬から3月初旬の実施を予定。後日、日程調整について連絡。

(2) その他

特になし

# 令和6年度 学校運営協議会 第3回会議 議事録

岡山県立新見高等学校

日時：令和7年2月27日（木） 13:30～16:00

場所：岡山県立新見高等学校 会議室

出席者：岩淵（岡山大学）、斎藤（新見公立大学）、昌谷（新見市総合政策課兼学校連携コーディネーター）、田中（新見商工会議所）、田邊（新見南小学校）、西岡（新見ふれあいセンター）、藤野（哲西中学校）、岩本（新見高等学校）、副校長、教頭、事務部長、主幹教諭、指導教諭、教務課長、生徒課長、進路指導課長、厚生課長、生物生産科長、工業技術科長（敬称略）

開会

## 1 会長あいさつ

年度末の多忙な時節への参集に謝意。委員である我々の仕事である「承認」を意識して取り組みたい。これまで、新見高校について前向きに考えてくださってきたことを、今後も継続いただきたい。

## 2 校長あいさつ

参集くださった委員への謝意。第3回の協議会では、今年度の本校としての学校経営に関する年度末評価と、次年度の学校経営計画について審議・承認をよろしく願いたい。

第2回協議会以降の本校のトピックについて紹介

- ・12月下旬、ゼロハンカー全国大会が浅口市で開催され、本校から2台が出場した。2台ともに3次予選まで進出したものの、惜しくも決勝進出とはならなかった。支援くださっている地元企業の方からは、「課題は見えている」との言葉をいただいている。地域の皆様に支えられ、生徒たちは健闘した。地域の皆様に感謝申し上げたい。
- ・2月、特別入試を実施。普通科37名（定員40名）、生物生産科15名（定員15名）、工業技術科17名（定員17名）が合格内定。
- ・一般入試受付は本日午前中まで。生徒募集は厳しい状況にある。効果的な対策があれば、と模索中である。  
令和4年4月に着任し、3月1日に卒業した第18期生たちとともに新見高校で過ごしてきたが、今年度末で卒業することとなる。新見高校は、今後も生徒の安心安全、教育活動および広報活動の充実を掲げ、地域の皆様から信頼される学校づくりに努めていく。ご協力をお願いしたい。

## 3 日程確認

令和6年度学校評価に係る説明、質疑応答を前半として実施、休憩を挟み、令和7年度学校経営計画に係る説明、質疑応答、意見交換・情報共有を後半として実施する旨を説明、確認。

## 4 説明

西岡会長による進行

事務局（各担当者）から資料をもとに説明

（1）令和6年度学校経営計画（年度末評価）

項目1について（全体：A評価）

- ・3年次で「C」評価

普通科：学校型推薦、総合型推薦等により、年内に進路決定する生徒が増加。最後まで目的意識を持ち学校生活を送らせていくことに課題があったとの評価による。

・教務課で「B」評価

校地統合初年度であり、運営していく上で課題も見られ、改善の必要ありとの評価による。

項目 2 について（全体：A 評価）

今後も、授業改善、1 人 1 台端末の活用、DX ハイスクール推進および資格取得の推進に取り組んでいく。

項目 3 について（全体：A 評価）

校地統合に伴い学校行事も新しい形になり、生徒による評価も高かった。

項目 4 について（全体：A 評価）

今後もニーズに応える広報を進めていきたい。

〈質疑応答〉

**委員 B**：年度末評価は、校内自己評価との認識でよいか？

→ 校内自己評価である。：主幹教諭回答

**委員 F**：「ICT 機器の活用の困難さ」とあるが、具体的にはどのようなことか？

→ 教科によって異なる部分もあり、具体的にはわからない。：主幹教諭回答

**委員 F**：情報発信の充実について、前回（第 2 回）協議会でも話題に上ったが、文章による発信に替わるものとして、制度や仕組みを考え、教員の負担も軽減しながら検討しては？

→ 新年度に向けて、検討を加えているところである。：主幹教諭回答

今年度から情報発信の方法としてメール配信（校支援）を導入。保護者の方に情報を取りに来ていただく形から、お届けする形への変化も見られる。：副校長回答

## （2）学校自己評価アンケート分析

項目 1・2：肯定的回答が昨年度に比べ向上している。項目 1 は、90%以上の評価を得ている。

項目 3・4：普通科の教科指導に関する評価

項目 5・6：生物生産科・工業技術科の教科指導に関する評価

普通科・専門科（生物生産科・工業技術科）ともに、資格取得についての肯定的評価が 90%に対し、1 人 1 台端末の活用についての評価は 70%と低いことが課題。

項目 7・8：地域連携および学校行事に関する評価

90%以上の肯定的評価を獲得。生徒の主体的活動、学校行事の見直し等が奏功。

項目 9・10：情報発信に関する評価

肯定的評価は向上しているが、項目 10 に関しては、教員の評価が低い。教員の思う情報発信と求められる情報発信とのギャップについて、校内の意識改革の必要性を感じている。

項目 11：「いじめ問題対策基本方針」による指導に関する評価

昨年度同様、保護者・生徒ともに「わからない」の回答が多い。周知の必要性あり。

〈質疑〉

特になし

## （3）進路指導状況

※資料訂正（普通科第 1 年次）

「文理パッケージ選択」 → 「文理選択」

校地統合初年度の今年度は、従前に両校地で実施してきた進路指導を基本的には踏襲。

新たな動き・試みとしては、

- ・市内企業を招聘しての説明会（専門科生徒対象）に、就職を考えている普通科生徒も参加
  - ・就職に係る推薦会議に、普通科就職希望者を加えて検討
  - ・3 月下旬：「卒業生と語る会」を企画、普通科卒業生 2 名、専門科卒業生 3 名を講師で招聘
- 生徒の動きとしては、普通科で推薦型入試（年内実施）を選択する生徒が増加する傾向。推薦に向けて、教員の指導力向上が求められる。



課題としては、校地間移動等の物理的制約があり、進路指導課全員が参集しての会議を持つことが困難であった点が挙げられる。課員の中からも定例会議を要望する声が上がっており、次年度に向けて検討が必要であると感じている。

〈質疑応答〉

**委員 A**：大学進学率・就職率は、それぞれどの程度の割合か？

→ ・専門科については、令和5年度は進学が就職を上回る状況にあったが、今年度は逆転、就職6割・進学4割となっている。

・普通科については、進学が多くを占めるが、就職した生徒も4～5名程度いる。これらの生徒は、入学当初から就職を希望していた生徒である。総合ビジネス科の閉科に伴い、「普通科でも就職に対応」と広報している。：進路課長回答

**委員 A**：入学時の進路希望が卒業時の進路先に結びついているか？

→ 分析には至れていない。1・2年次での進路希望調査によれば、実施する時期により

変容が見られているようである。：進路課長回答

**委員 B**：高校生の進路希望は多様化しており、選択の幅も広がっている。総合的な探究の時間への取り組みにより、進路選択の幅が広がっているという論も見られる。新見高校の実態はどうか？

→ 普通科の探究では、主権者教育として市政に関わっていく中で多角的な視点から様々な職業について知る機会となっているとも考えられる。：進路課長回答

専門科については、特別活動の中でキャリア教育を実施。LHRで未来の自分を見つめる単元が設定されている。：主幹教諭回答

**委員 F**：中学校段階における総合的な学習の時間と進路意識との関連性は見られるか？

**委員 G**：中学校では、PBLとして「自分たちに何ができるか」を柱として取り組んでいる。どのような課題があるかについて、各学年でテーマ設定している。職場や地域の事業所と関わりを持つ中で、目の広がりがあると思われる。

#### (4) 新見市高校支援事業実績報告

令和6年度から、資格取得助成事業、留学支援事業、部活動支援事業が新たに始まっている。

- ・留学支援事業については、年内に米カリフォルニア州への短期ホームステイに1名が参加。今後も春までに2名の生徒が事業に参加を予定している。
- ・部活動支援事業では、ソフトテニス部・バドミントン部が講師を招聘している。

〈質疑応答〉

**委員 C**：部活動支援について、来年度以降も専門人材を積極的に招聘してほしい。

**委員 A**：留学支援事業の人気度はどうか？

→ 参加条件に「英検準2級以上」がある。留学支援事業の参加を意識してか、英検受験の動きが出て来ている。：主幹教諭担当

関心のありそうな生徒個々に声をかけている。動き出している生徒も見られるようになっている。：進路課長回答

**委員 C**：留学支援事業については、入学後1年次で英検準2級を取得し2年次での参加、というケースを想定してもいる。費用については、参加費用の3分の2（30万円）を補助。

#### (5) 令和6年度主な事業と予算執行状況

県事業：校外学習・交流事業への補助（専門科）、受験書籍購入補助（普通科）

国事業：DX加速化促進事業（1000万円補助：施設整備・機器購入）

市補助：高校創生パワーアップ事業等（専門科）・進路参考書購入（普通科）

HP改修・資格取得支援・留学支援・部活動支援等

〈質疑応答〉

**委員 E**：県立高校であるが、市の補助があるのは一般的か？他市にも見られるか？

→ 真庭市・高梁市・矢掛町等に見られる。県外からの進学者に対する住居費補助や制服購入費・通学費補助等を行っている。：事務部長回答

(10 分程度休憩)

(7) 令和 7 年度学校経営計画書（案）※参照資料（6）令和 6 年度学校経営計画書策定についての説明

- ・ 3 内外環境分析に基づき策定：2 本校の理念
- ・ 理念に基づき策定：1 スクール・ミッション
- ・ スクール・ミッションに基づき校内検討・策定：4 本校のビジョン
- ・ ビジョンに基づき策定：5 当該年度（令和 7 年度）の具体的な学校経営目標・計画見直しを図った点
- ・ 理念
  - 「新見市唯一の県立高校」「地域の拠点校」→「地域の期待に応える高校として」
  - 「普通科」「専門科」をまとめ、進路の多様化に鑑み「学科を問わず普通教育の充実・専門教育の充実」に
- ・ 具体的な学校経営目標・計画
  - 4 広報：「新見高校広報全体計画に基づいた広報」→「高校生活の今が伝わる情報発信」

〈質疑応答〉

**委員 A**：グランドデザイン「行きたい学校・行かせたい学校であり続けるために」は、いつから掲げているか？

→ 令和 3 年度から。：主幹教諭回答

**委員 A**：グランドデザインは変化するものなのか？

→ 毎年見直しを行っている。令和 7 年度については、内外の環境分析について変更を加えている。：主幹教諭回答

**委員 E**：具体的計画について、1 人 1 台端末の支給方法はどうなっているか？小中学校は市からの支給となっているが。

→ 高校は県から指定のものを一括購入する形となっている。：事務部長回答  
機種としては iPad・Chromebook・Macbook から選択。本校は市内小中学校との連携を考慮し iPad を選択している。：主幹教諭回答

購入困難なケースには、学校から機器の貸し出しで対応している。：主幹教諭回答

〈承認の可否を確認〉→ 承認

※今後修正のある場合は、次年度第 1 回協議会で協議・承認とする。

(8) 令和 7 年度主要事業予算（案）

県費：運営に係る予算については、今年度並みとなる見込み。

施設改修として、渡り廊下の老朽化改修、第 2 グラウンド周辺の樹木伐採を継続の予定。

DX 加速化推進事業：継続申請中。採択されれば 500 万円の予算となる。

新見市からの補助：今年度並みとなる見込み。

〈質疑応答〉

**委員 A**：令和 8 年度の DX 関連予算はあるか？

→ 現状はないと考えられる。：教頭回答

〈承認の可否を確認〉→ 承認

(9) 令和7年度教育課程

変更点について説明

- ・普通科：パッケージによる科目選択の廃止 → 進路希望に応じて個別最適化した科目選択が可能に
  - ・3学科の体育の単位数を揃えた
  - ・工業技術科：「数学Ⅱ」を設定 → 大学進学希望者への対応
  - ・生物生産科：課程外で実施していた「実習」を廃止
  - ・全科2・3年次に「自立活動」を設定（選択） → 通級による指導への対応
- 課題として2年次の科目選択について、1年次夏には選択させることになり、進路に関し熟考する期間が少ないことに困難を感じている。

〈質疑応答〉

**委員C**：パッケージは残しているか？

→ 2年次から3年次への進級時にパッケージの縛りで科目選択が影響を受けることなく、希望する進路によって柔軟な科目選択を可能とするために廃止している。

ただし、情報系を主として商業系の学びを選択科目に残している。：教務課長回答

〈承認の可否を確認〉 → 承認

5 意見交換

**委員D**：生徒数減について、話題に上る。今年度他校（新見市から多数進学している近隣校）と新見高校のオープンスクールを参観し、比較してみた。

**委員D（続き）**：実施している内容に大差はないが、見せ方に差が見られる。

プロモーションに長けた外部人材等の協力を仰いでみてもよいのでは？

市の支援等（費用面）も検討して。

また、新見市から高梁市や総社市等への生徒流出の現状もあって、市外からの生徒を呼び込むことを考える必要があると思うが、その場合、寮が整備されていないと難しいのではないか。寮の設置については、「明日の新見高校を考える会」からも市へ要望したが、「入寮実績が出なければ難しい」との理由で頓挫している経緯がある。新たな設置を考えるのではなく、新見駅に隣接している新見公立大生用の寮の幾室かを借り、入寮実績を検証してはどうか？別の方法としては、空き家を改修するというのはどうか？

**委員C**：広報については、地元業者でとを考えている。寮については、食事をつかなければ高校生は入寮しないと思われる（高校生の事情・保護者の意向）。新見公立大生用の寮では食事をつかない。

**事務部長**：学校近隣の宿泊施設（食事面もクリアできる）をお借りできないかと考えたが、外部宿泊者が絶えず利用しているため、依頼は難しい状況にあると思われる。

**委員D**：先日、市内私立高校を卒業した留学生（野球部）が、高校での経験が現在の自分を作っていると語っているのを目にした。しかし現在、その高校に野球部はなくなっている。部活動は、生徒から魅力的に見え影響も大きいと思われるが、生徒数減少の現在にあっては難しい面もある。

**委員A**：岡山環境事業団から、新見市でも活動を展開していきたいとの希望を聞いている。SDGs関連で総合的な探究の時間等で協働できないか？

**委員B**：年内入試が増える中で、共通テスト受験者への指導やフォローはどうなっているか？

市内大学の入試状況も、定員の半数を年内入試とした学科では高倍率となったが、従来入試を展開する学科では定員割れの危機もある現状にある。年内入試の増加は全国的な流れ。共通テストについては、年内入試合格者も含め全員に受験させている学校もあるが。

→ 進路指導の根幹は、共通テスト受験であると考えている。2次試験に耐えうる授業を実施するという点で教員にぶれはない。共通テストについては、今年度3年次生は普通科80名中56名が出願、55名が受験している。年内推薦入試等の合格者についても受験しており、共通テストに向かう雰囲気づくりはできている。8限補習後や放課後の生徒の学習の様子に弛みはないと思われる。また、本校には「黙学」の習慣があり、1年次生から3年間をかけ身につけている。今後も継続していくものと考えている。：進路課長回答

**委員D**：かつては企業でも、SPIでの制限や大学による採用見送り等を行っていたが、現在はとりやめている。大学は年内入試で学生を確保している。ハードルは下がる一方の傾向。中学校では、「(新見高校へは)勉強しなくても合格できてしまう」と言われているとよく聞く。学力低下が懸念される。

**委員F**：新見高校の大学進学実績は、変わらず維持されている。高校教員の尽力によるもの。小中学校のうちに勉強させておく必要があると考える。

**委員G**：新見高校への評価(勉強しなくても……)は、新見市全体の中学校として否めない現状にあると思う。

**委員E**：市外近隣高校の特別入試を受検したものの、ほぼ不合格となったという市内中学校の状況もある。不合格となる高校もあるという現実がある中で、どうやって新見高校を受検させていくか。

**委員E**：高校時代を思い起こすと、自身は入寮し新見高校に通学した。寮があることはありがたかった。寮の問題は大きいと考える。

**委員D**：難しいと言われるが、市外から勉強しに来る生徒への財政投資は必要ではないか。市内の中学生にとって、高校の部活動(どんな部活動があるか)は魅力。女子生徒にとっては、家政科がなくなり、ビジネス科もなくなったことで、就職先が新見市内にないという思いがある。核となるのは、高校生の受け皿となる就職環境である。

## 6 その他

(1) 令和7年度学校運営協議会委員について

- ・再任は妨げない
- ・3月中に連絡し打診の予定

(2) その他

特になし